

平成24(2012)年度 法学研究科博士課程前期2年の課程 入学試験問題(一般選抜)

(科目名) 民法

【第1問】賃借権の対象である不動産の利用が第三者の占有により妨害されている場合、賃借人が当該不動産から第三者を排除するための方法としては、どのようなものがあるか(当該第三者は賃借人との話し合いに応じるつもりはないものとする)。複数の方法を想定し、それぞれの特徴(どのような場合に有用でどのような場合に有用でないのか等)を比較しつつ、論じなさい。なお、当該不動産の賃借人をX、賃貸人をA、当該第三者をYと表記すること。

【第2問】以下のうちから一問を選択し、解答しなさい。なお、選択した問題の記号を、解答の冒頭に明記すること。

問題 A：いわゆる「二重効」とはどのような問題かについて、具体例を一つ挙げて説明

したうえで、当該具体例についてどのように考えるべきかを論じなさい。

問題 B：抵当不動産の売却代金に対する物上代位は認められるべきでないとする見解が

ある。この見解の論拠を説明するとともに、当該問題に関してどのように考える

べきかを論じなさい。

問題 C：特別養子縁組の効果を、特別養子制度の制度趣旨を踏まえながら、普通養子縁

組の場合と比較して説明しなさい。

問題 D：被相続人の金銭債務（単独債務）は、共同相続において、債権者との関係でど

のように扱われるか。最高裁判例の立場を説明したうえで、それに論評を加えな

さい。